

高校三年生の春、相方の菅さんに「一緒に芸人になろう」と誘われ、「売り」になるかもと文系最難関の京大法学部を受験した。僕は教科書を読みこんで、一日一時間勉強し現役合格したが、菅さんが浪人したため、二〇歳でロザンを結成した。

五〇回以上もオーディションを落ちて、ようやくデビューしたのは大学三年生するとき。当時、家庭教師のバイトは時給三五〇〇円、劇場の出演料はたったの五〇〇円だった。それでも親に黙って就職活動もせず、芸人の夢を追い続けた。二人でしゃべることが楽しく、これを仕事にしたら、人生が楽しくなると思ったからだ。今思えば、若気の至りだが、何の根拠もない自信があった。ただ芸人をやりたかった。普通に就職していたら、仕事に声を出して腹を抱えて爆笑できるような幸せは味わえなかっただろう。

学生時代から菅さんとはお金の貸し借りが一切なく、支払いは割り勘だ。芸人になってからの収入も折半にしている。二五歳の頃、「オールスター感謝祭」に二人で出演した際、菅さんが優勝して、賞金三〇〇万円の半額を僕にくれた。いいヤツだと思った。その後、三〇歳で「平成教育予備校」に出演したことをきっかけに、僕はクイズ番組



絵・江口修平

## 受験もお金も教科書が大事

宇治原史規

一人で出るようになった。賞金を稼ぐことも増えたが、全て折半している。今思えば最初の三〇〇万円の半額は、将来を見越した僕への投資だったのかもしれないが、菅さんとお金のことでもめたことはまったくない。互いのプライベートにも踏み込まず「親しき中にも礼儀あり」を守っているからこそ、いつまでも仲良くいられるのだろう。

二〇代は稼いだだけお金を使っていたが、三〇代で家庭を持って意識が変わった。住宅ローンを借り、保険にも入った。数年前からは父親に勧められて証券口座を開設し、お金の教科書を勉強して、株式や投資信託への投資を始めた。投資対象は、安全性を重視し、将来性のあるものを少し組み込んで、長期保有している。長い目で見ていくので、大きく相場が下がった時でも動じず、逆上がりしても喜ばないようにしている。

お金の話をすると「汚い」と言われることもあるが、それは感情が入ってしまうからだ。落ち着いてお金の話をすれば、人生が豊かになる。SNS等で情報が溢れているが、僕は常にフィルターをかけている。一歩右に踏み出したなら二歩目は左に。反対意見を聞くことも重要だ。きちんとしたお金の教科書を勉強すれば、人生をより良くできると信じている。

うじはら・ふみのり●お笑いタレント。1976年4月20日、大阪府四條畷市生まれ。京都大学法学部卒業。1996年、高校時代の友人である菅広文とお笑いコンビ「ロザン」を結成。漫才師として舞台に立つ一方で、クイズ番組をきっかけに才能を開花。現在では舞台やテレビ出演のほかYouTube「ロザンの楽屋」や講演会「ロザン塾」など幅広く活躍。

